

# 編集 後記

生理学雑誌が隔月刊になって初めて編集後記を担当します。これまでは毎年夏に担当が廻ってきて、同じような季節の挨拶にわれながら退屈しておりました。この冬は「地球温暖化はどうなった?」と思われるほど、寒い日が続いています。みなさま如何お過ごしでしょうか。

私が所属する高知大学医学部では2月に生理学実習を行っています。実習がわれわれ教員にとってビッグイベントであることは多くの方が認めて下さると思います。1月も半ばを過ぎ、そろそろ準備を始めなければ、と正月太りの重い腰を上げつつあります。昨今の入学定員増に加え予算の削減で非常勤講師の数が減ったことで、1グループの人数が増え、老いていく身にとって実習の負担がますます大きくなってきました。以前の8~9人のときは、最初に出席を取ればほぼ名前と顔が一致し、実習終了時にはかなりの数の学生の名前が頭に入ったものですが、最近では1グループが15人近くなり、よほど特徴のある学生でないとい記憶に残りません。

レポートもパソコンを用いての素人向けのサイトからのコピー・ペーストでは「本人のためにならない」と手書き提出とさせてはいますが、それを読むわれわれの苦労は学生には理解してもらえないようです。レポートの内容に関してはこちらを満足させるような深い考察がなされたものは1割

もありません。年度末の成績提出期限に追われてレポート提出期限が早すぎるためとも考えられますが、実験の立案やデータを解析する能力を初等・中等教育の段階で身につけさせるべきと感じることもしばしばです。実習を行う上で、いろいろな工夫をされている先生方のご意見を伺ってみたいと思います。

日本生理学会にはいくつかの委員会があって、研究・教育に関する議論がそれぞれなされています。MD-PhD コースなど早期から研究を志向する学生を確保する重要性が強調されています。そしてまた重要な使命の一つとして、臨床医学に進んだ後に壁にぶつかり、もう一度基礎的にメカニズムを深く追究したいと、基礎の教室の門を叩くMDを養成し、かつ受け入れることが挙げられています。

学生実習を見ていると、ある生命現象に対し「わあー、すごい!」と感動する感性はもしかしたら幼少期からの家庭環境の中で培われるものかとも思うことがあります。そして、自分にその感性が十分備わっていないがために、その「わあー、すごい!」の感動を伝える教育ができないのではという悩みがふっと浮かぶことがあります。まあ、悩んでいないで、まずは実習の準備に取りかかることとします。

奥谷文乃

## 日本生理学会\*編集・広報委員

\*\*御意見・メッセージをお待ちしています\*\*

多久和 典子	(編集長・HP)	小林 誠	(校正・編集後記)
上田 陽一	(校正・編集後記)	佐藤 元彦	(HP:サイエンストピックス)
宇賀 貴紀	(若手のページ)	相馬 義郎	(HP:募集情報などお知らせ全般)
榎木 亮介	(HP:サイエンストピックス)	田代 倫子	(Afternoon Tea)
奥谷 文乃	(校正・編集後記)	平野 勝也	(校正・編集後記)
奥村 哲	(若手のページ・HP:地方会など)	村山 尚	(編集・表紙)
尾野 恭一	(校正・編集後記)	毛利 聡	(表紙)
柏柳 誠	(校正・編集後記)	柳(石原) 圭子	(校正・編集後記)
久野 みゆき	(教育のページ)	山下 俊一	(HP:カレンダー・教育ホットニュース)
小泉 周	(HP:地方会・学会賞・G.D.)	渡辺 賢	(副編集長・Afternoon Tea・表紙)

日本生理学会事務局：〒160-0016 東京都新宿区信濃町35  
信濃町煉瓦館 財団法人国際医学情報センター内  
TEL: 03-5361-7277 (勤務時間 9:00~17:00) FAX: 03-5361-7091  
E-mail: psj@imic.or.jp  
URL: <http://physiology.jp/>